

令和7年度 詳細評価シート

(1)事業の概要等

事業番号		Z3003		事務事業名		広報等作成事業		事業期間		昭和63年度以前		～		令和9年度以降					
実施計画事業																			
評価対象年度		令和 6 年度		担当部		市長公室		担当課・担当係		広報広聴課		広報広聴係							
事業の概要・展開	小牧市まちづくり推進計画 (R5年～R8年)	自治体経営編		基本 施策	30	展開 方向	3	事業区分	その他(評価対象)	款	2	項	1	目	3	大	3	中	1
	事業の目的・効果	市の各種施策・事業・サービスなどの市政情報を広く提供することにより、市政に対する理解と信頼を深め、円滑な市政運営を目指す。							事業概要		広報こまきや市政カレンダーなどを作成し、市政情報を提供する。広報こまきは月1回、市政カレンダーは年1回発行し、各区を通じて配布している。								
	事業の経緯・年度計画	<p>R2 新型コロナの情報を集約した「広報こまき特別号」を作成し、5/15号のタイミングで配布                  R3 広報こまきをより見やすくするため、「くらしの掲示板」の見直しなどを実施                  R4 広報こまきの発行回数を月1回に変更することに伴い、各コーナーの整理及びページ数の削減を実施                  R5 特にシニア世代を対象とした情報を文字を大きく、見やすく、分かりやすくまとめた「いきいきシニアニュース」やSDGsに関するコーナーを新設した。また、二次元コードを積極的に活用し、広報紙の情報を補足するためのホームページや動画などのデジタル情報と連動できるよう工夫した。</p> <p>○令和6年度の主な実施内容                  ・市の各種施策・事業・サービスなどの市政情報を広く提供することにより、市政に対する理解と信頼を深めるため、広報こまき(毎月1回)、市政カレンダーを発行した。                  ・市民活動団体に広報こまきの一部(くらしの掲示板、イベント情報、SDGs啓発コーナー)の作成を委託し、市民との協働による紙面づくりを行った。                  ・市民団体との協働事業で、市民自らが「市民レポーター」として、市民目線での企画・取材・編集を行うコーナーを取り入れている。                  ・こどもたちの地域や社会への興味や愛着を高めるとともに、こどもを軸とした世代間のつながりづくりのきっかけとして、市内の小学4年生から中学3年生までを対象に、こども向け広報紙を作成・配布した。【年2回/夏号・冬号】</p>																	

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R3	R4	R5	R6	R7	
			直接経費	決算額	千円	88,733	79,735	59,925
	財源	一般財源 国・県支出金 その他						
		計(A)	88,733	79,735	59,925	65,773		
		対前年比	%	89.86%	75.16%	109.76%		
	人件費	予算額	千円	96,870	91,142	63,692	71,648	66,179
		正規職員	人	3	3	2	2	
		会計年度任用職員	人					
		人件費(B)	千円	22,572	22,572	15,048	15,048	
		事業費合計(C=A+B)	千円	111,305	102,307	74,973	80,821	

(3)業績

指標	指標ほか	単位	R3	R4	R5	R6	R7
			成果指標	市からの情報発信が充実していると感じる市民の割合	%	目標 — 実績 —	— —
活動指標	広報こまき発行部数	部	目標 — 実績 1,409,000	— 1,409,630	— 704,419	— 704,215	—

(4)事業の評価

事業の方向性		維持(改善)		事務事業評価による額		1,584 千円	
事業の実施状況	事業の目的の達成状況及び指標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報こまきや市政カレンダー等を通じ、市の各種施策や事業、サービスなどの市政情報を広く提供することができた。</li> <li>・社会のデジタル化の進展、紙資源削減による環境負荷の軽減、広報紙配布に係る自治会の負担軽減の大きく三つの理由により、広報こまきの発行回数を令和5年4月から月1回に変更し、令和4年度決算額と比較し、事業費を約17.5%削減することができた。</li> <li>・市からの情報発信が充実していると感じる市民の割合は微減となったものの、広報こまき紙面に二次元コードを積極的に活用し、動画やホームページ等のデジタル媒体での補足情報を加えるなど、発信情報の充実を図った。</li> </ul>		今後の実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も引き続き、広報こまきや市政カレンダー等の紙媒体による市政情報の発信を継続していくものの、デジタル媒体のメリット・デメリットなどを整理した上で、ターゲットに応じた情報発信に努め、広報こまきページ数の削減や配布先の整理・見直しによる発行部数の削減に努める。</li> <li>・小学4年生～中学3年生に紙配布している「こども広報」について、R7.夏号よりデジタルブックビューア「カタログポケット」を活用し、デジタル配信する。</li> <li>・広報こまきの音声データをホームページに掲載し、障がい者の情報取得手段を充実させる。</li> </ul>	
	E(廃止)業務自体を無くせるか	No	改善 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も急速に進展することが予想される社会のデジタル化やペーパーレス化推進などの背景を踏まえ、紙媒体による情報発信に加え、デジタル媒体の活用をさらに進め、幅広い年代に様々な市政情報を届けることができるよう工夫していく。</li> <li>→デジタル媒体のメリット・デメリットなどを整理した上で、ターゲットに応じた情報発信に努め、広報こまきページ数の削減や配布先の整理・見直しによる発行部数の削減に努める。</li> <li>→市の現状や魅力の市内外PRに活用するため、現在の市勢要覧をH28に作成し、H30とR2に増刷した。新たに作成する市勢要覧については、紙媒体での作成は廃止し、デジタル媒体(デジタルブックビューア「カタログポケット」)を活用して発行する。</li> </ul>			
	C(結合)作業をまとめられるか	No					
	R(入替・代替)手順や担当を変えられるか	Yes					
S(単純化)もっと簡単にできるか							